

SL01 パンデミックインフルエンザ Pandemic Influenza

河岡 義裕 (Yoshihiro KAWAOKA)

東京大学医科学研究所感染・免疫部門感染症国際研究センター (International Research Center for Infectious Diseases and Division of Virology, Department of Microbiology and Immunology, Institute of Medical Science, University of Tokyo)

2009年、ブタ由来のインフルエンザウイルスがメキシコで現れ、瞬く間に世界中に広がった。このウイルスが出現した当初、メキシコでは通常の季節性インフルエンザでは認められないウイルス性肺炎が多くの重症患者で認められた。そこで、このウイルスの病原性を動物モデルで調べたところ、季節性のインフルエンザウイルスよりも肺で良く増殖するため、ウイルス性肺炎を引き起こしやすいことが分かった。今後、このウイルスがどのように変異していくかは予測できないが、注意深く観察する必要がある。本講演では、新型インフルエンザウイルスの性状について紹介するとともに、今後どのようなことが問題となり得るかについて、考察したい。